

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 195人

② 数学 195人

5 留意事項

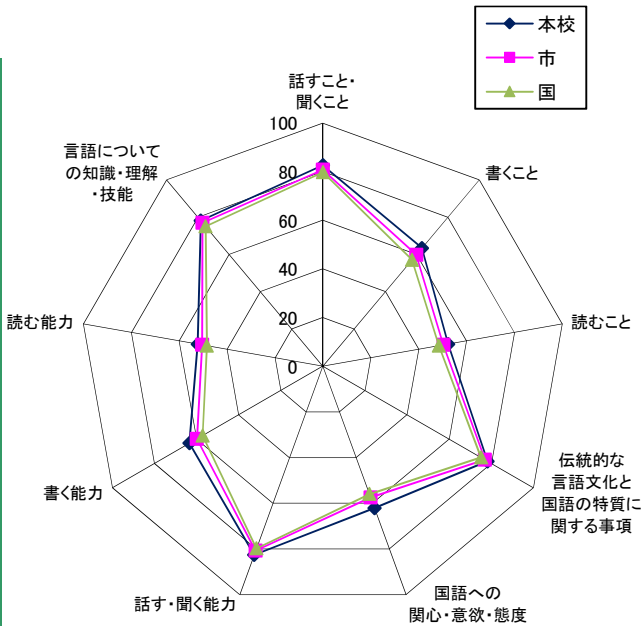
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.6	80.8	79.8
	書くこと	63.4	59.8	57.1
	読むこと	52.3	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.2	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.1	57.5	56.0
	話す・聞く能力	82.6	80.8	79.8
	書く能力	63.4	59.8	57.1
	読む能力	52.3	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	78.2	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

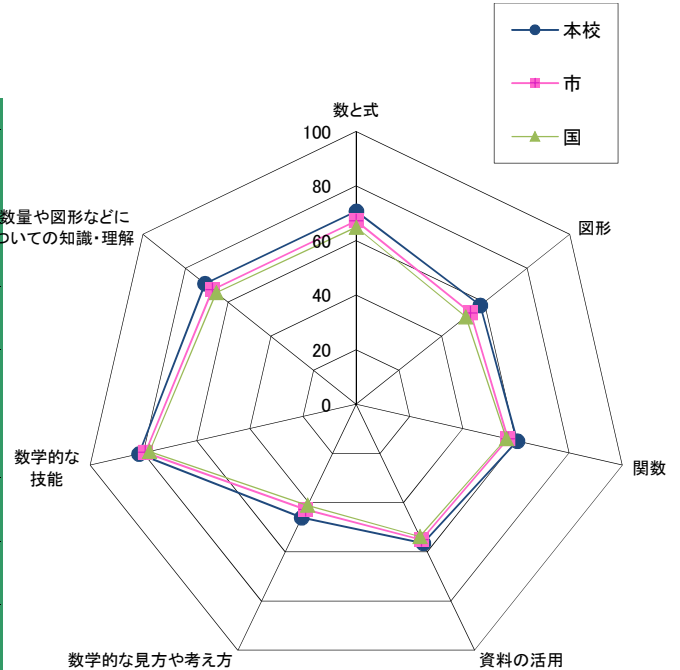
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」という問題の正答率は、全国の正答率を6ポイント、県の平均を5ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・聞き取りテストを行い、話している側の意図や要点を聞き取る力を養いたい。聞き取った内容をもとに、自分の意見を書くことができるような課題にも取り組むようにする。さらに、小グループで相互評価することによって、実際にどのような効果を生んだのかを振り返る機会を同時に設けていく。
書くこと	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「書いた文章を互いに読みあい、文章の構成の工夫を考える」という問題の正答率は、全国の正答率を11.7ポイント、県の平均を8.8ポイント上回った。	・文章を書く活動をする中で、明確な反対意見や説得力の高い根拠を挙げることによって、読み手を納得させるような文章を書く活動を増やしていく。
読むこと	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」という問題の正答率は、全国の正答率を5.9ポイント、県の平均を6.5ポイント上回った。 ●「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」という問題の、無回答率が14.4%あった。	・書くことの分野や読むことの分野では、内容を捉えることが難しく、書くことができない生徒もいる。そのため、文章の要点が捉えられるように多くの問題を解くようにしていく。その際に接続表現などに着目し、要点をまとめながら読むことによって、文章を論理的に読む力を身に付けさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」という問題の正答率は、全国の正答率を4.5ポイント、県の平均を6.8ポイント上回った。 ●「相手や場に応じて敬語を適切に使う」という問題の正答率は、県、全国の正答率を上回ったものの、正答率は48.2%であった。	・敬語の種類について理解するだけでなく、短作文などで、ある場面を想定した敬語の使い方が正しくできているのか、確認していくようにする。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.7	67.2	64.9
	図形	58.1	53.6	51.4
	関数	60.5	57.0	56.4
	資料の活用	56.5	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	46.1	42.8	41.1
	数学的な技能	81.7	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	70.9	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」という問題の正答率は、全国の正答率を5.4ポイント、県の正答率を5.5ポイント上回った。 ●「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」という問題の無回答率は、20.5%であった。	・数と式の分野で、計算や簡単な方程式を解くことはできるが何のためにその操作を行っているかの理解が浅いので、式の変形をする際にはなんのためにやっているのかなどに注目させるように指導を工夫する。
図形	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ●「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現することができる」という問題の無回答率は、20.0%であった。	・図形の分野で、平行四辺形になるための条件や錯角が等しくなるための2直線の位置関係について理解できている生徒は多いが、「ある条件下で」などの一定の条件がついている問題に対応できるよう、数多くの問題に取り組むようにさせる。
関数	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」という問題の正答率は、97.4%であった。 ●「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」という問題の無回答率は、17.9%であった。	・関数に関する基本的な知識・理解や技能に関する事柄を授業で繰り返し取り上げ定着させたい。また、式・グラフ・表を関連づけた問題が苦手であるようなので、折に触れ取り上げて、学び直しをさせていく。 ・事象を数学的に解釈し、説明するような問題も関数の単元の中だけでなく、計画的に取り組んでいく。
資料の活用	○「ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる」という問題の正答率は、90%を超えていて、全国の正答率を7.3ポイント、県の正答率を6.2ポイント上回った。 ●「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という問題の無回答率は、27.7%であった。	・資料を活用するような場面では、必要な情報を適切に読み取る力がを身に付くよう、積極的に説明するような場면을授業で取り上げて指導していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習について

○「あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の生徒と意見交換したり、調べたりするために、どの程度使っていますか」という質問に対して、週1回以上と回答した生徒が57.6%で県平均を27%上回った。全ての教科でクラスルームを作り、学習に活用し始めている成果が出ているのだと思われる。

○「1、2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の肯定的回答が91.4%で、県や国の肯定的回答を上回っている。自分の考えを伝え合うための活動を、どの教科でも行っている成果が表れているのだと思われる。

●「解答時間は十分でしたか」の国語と数学について肯定的回答が、全国の肯定的回答よりも下回っている。授業の中で、解答時間を設定するなど、生徒が時間を意識するような授業の工夫をしていく。

生活について

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という問いに対して、肯定的な回答の生徒が全国や県の平均を上回っている。これは、本校の生徒にボランティア活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多いからだと思われる。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」という問いに対して、肯定的な回答が89.9%あり、全国や県の平均を上回った。受験を控えて、進路実現のために努力しようとする生徒が多いことの表れだと考えられる。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を勉強のために使っていますか」という問いに対して、全く使っていないという回答の割合が23.2%と、県や国の回答を上回っている。情報機器は手元にはあるが、調べ学習などに活用できている生徒が少ないことが分かる。タブレットの持ち帰りも始まっているので、有効活用できるように指導していきたい。

携帯電話やスマートフォンについて

○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、83.4%の生徒が肯定的回答で、県の平均を12%上回っており、家庭内で使用の際のルール作りがなされている家庭が多い。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問に対して、13.6%の生徒が4時間以上と回答し、県の平均を0.8%上回っている。

宇都宮市立横川中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの取り組み方の統一。	・自主学習に取り組む時に、「めあて」「振り返り」を書くことにより、どんなことが分かり、どんなことが分からなかったのか確認して学習に取り組ませる。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対しての肯定的な回答は、81.3%で、県と国の平均を5ポイント以上上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を勉強のために使っていますか」という質問に対して、全く使っていないという生徒の割合が23.2%と、県や国の平均を上回っている。	・AI型学習ドリルに取り組ませるなど、タブレットの積極的な利用を図る。	・タブレットの持ち帰りが毎日始まっているので、AI型学習ドリルを家庭学習で活用させる。